

**丸文**  
**2026 年 3 月期第 決算説明会**  
**質疑応答（サマリー）**

日時：2026 年 5 月 18 日（月）10:30 - 11:10

場所：丸文本社よりライブ配信

説明者：代表取締役社長 兼 CEO 堀越 裕史

**Q：メモリ不足が御社に与える影響を教えてください。**

A：結論から申し上げますと、当社業績への直接的な影響は限定的であると考えております。当社が主力として扱う製品ラインナップには、メモリを主力とする大手メーカーが含まれておらず、売上高に占めるメモリ製品の構成比は相対的に低い水準にあります。そのため、メモリ自体の供給不足が当社の仕入・販売に直結するリスクは小さいと言えます。市場全体でのメモリ不足を受け、お客様から供給に関するお問い合わせをいただくケースは増えております。しかしながら、当社が取引する仕入先においても在庫は逼迫してきており、現状では新規の需要をすべて取り込むまでには至っておりません。また注視すべきは副次的な影響です。当社が扱うデバイス自体に問題がなくとも、お客様の製品製造に必要なメモリが不足することで、お客様側の生産計画が延期・変更される可能性がございます。その場合、当社の製品納入スケジュールにも影響が及ぶため、主要なお客様の生産動向については、営業部門を通じてきめ細かく情報収集を続けております。

**Q：産業機器市場における在庫調整は、いつ頃に底を打ち、回復に向かうと見ていますか。**

A：産業機器分野の動向については、現時点ではお客様や製品によって状況が異なりますが、市場の全体感としましては、昨年度末には底打ちした状況と認識しており、今後は緩やかな回復基調が見込まれます。足元の状況を鑑みますと、ポジティブな兆候も出始めています。工作機械受注や設備投資計画といった先行指標においては、一部で持ち直しの動きが見受けられます。これらは将来的な半導体・電子部品需要に直結する重要なサインであると捉えています。当社としましては、この先行指標の変化をいち早く捉え、お客様の生産動向を確実にキャッチアップできるよう、営業体制を強化しております。市場が本格的な反転攻勢に転じるタイミングを逃さず、シェア拡大と業績回復に繋げてまいりたい所存です。

**Q：航空宇宙機器の売上高が 2026 年 3 月期に前年比 25.6%増となった背景、2027 年 3 月期にはさらに前年比 54.7%増と予想する根拠についてご教示ください。また同機器の 2028 年 3 月期の見通しもあればご教示ください。**

A：航空宇宙関連の売上が 2026 年 3 月期に前年比 25.6%増となった要因ですが、政府および民間双方の需要が旺盛であったことが背景にございます。本分野の需要環境は、今後も一定の期間において継続するとみております。特に宇宙関連の国家プロジェクトは中長期的な計画に基づいて進められており、これらは一過性のものではございません。国策として継続性が高いため、関連

需要は数年に渡り堅調に推移していくとみています。また検討・開発期間が長く、これら導入後の保守サポートも必要となる案件も多くございます。ただし短期的に利益が爆発して伸びるというよりは、長期にわたって安定的に収益を重ねていくことになります。確実な追い風が吹く中で、各プロジェクトの進捗にあわせて着実に利益を積み増して参ります。こうしたプロジェクトの中で重要となるのはお客様との深い信頼関係です。当社が長年培ってきた技術支援力と実績を武器に、お客様のパートナーとして初期段階から深く入り込むことで、他社より強い関係を築いております。この強みを活かして今後の成長を牽引して参ります。

**Q：2026年3月期のデバイス事業で、モビリティ向けが伸長要因になっています。具体的にどのような箇所への採用が加速したのか、可能な範囲でご教示ください。また2027年3月期のデバイス事業では、民生機器向け、産業機器向けが成長材料になっています。この民生機器向け、産業機器向けとは具体的にどのような内容になりますでしょうか。こちらも可能な範囲でご教示いただけましたら幸いです。**

A：個別の案件に関する詳細なご回答は差し控えさせていただきますが、全体の傾向といたしましては、モビリティ向けではインフォテインメント関連が、民生機器向けでは家電やデジタルカメラ等の幅広い分野が、そして産業機器向けではFAや工作機械を中心に伸長いたしました。

**Q：2025年度の有価証券報告書に記載されている主要仕入先のインフィニオン社、主要販売先の任天堂社の構成比が、前者が16.0%、後者が15.7%であります。最新動向についてご教示ください。**

A：個別のお取引先様に関するご質問についてご回答いたします。先般開示いたしました2026年3月期決算短信にも記載しております通り、当社の主要販売先の一つである任天堂様向けの売上比率は16%程度となり、前年度と同水準で推移しております。また、主要仕入先の一つでありますインフィニオン様の仕入比率につきましても、10%程度となっております。

**Q：海外販売の比率について、これまでの推移と今後の見通しについてご教示ください。**

A：海外比率は統合報告書でも開示しておりますが、過去より30%程度より推移しております。直近も変化はございません。今後の比率についても、デバイス事業が大半を占めておりますので、デバイス事業のお客様の需要動向に影響を受ける部分はございますが、連結全体では売上高比率30%前後で推移するものと想定しております。